

Apple OS

OSアップグレード 初心者ガイド

macOS Ventura、iPadOS 16、iOS 16、tvOS 16にアップグレードする前に知っておくべきこと





最新のApple OSへのアップグレードはお済みですか？

Mac、iPad、iPhone、Apple TVのオペレーティングシステムであるmacOS、iPadOS、iOS、tvOSの最新バージョンがリリースされました。新たな機能と最高のセキュリティを約束するこれらの最新OSを、ワークフローの中断や生産性の低下を招かずに行うにはどうしたら良いのでしょうか？

これが口で言うほど簡単でないことを、多くのIT管理者が知っています。Appleユーザがアップグレードを迅速に行うことを好む傾向にあることを考えれば尚更です。しかし、ここで朗報です。Jamfはこの分野において20年以上の実績があり、初めてのOSアップグレードを行う人だけでなく、経験豊富なプロフェッショナルに向けても、Apple OSのアップグレードを成功させるための丁寧なガイダンスを提供することができます。

Apple OSの アップグレード が他のOSと 異なる理由



他のエコシステムとは異なり、AppleはmacOS、iPadOS、iOS、tvOSといったオペレーションシステムの大型リリースを1年に一度行っています。プロセスがシンプルなこと、そして無償で行えることにより、Apple OSのアップグレードは業界トップレベルの導入率を誇ります。

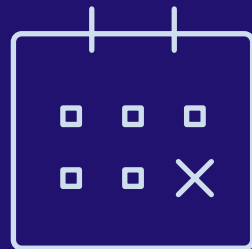
この傾向は、Appleのハードウェアとソフトウェアの垂直統合によってさらに加速しています。最新のMac、iPad、iPhone、Apple TV、Apple Watchは常に最新のOSを搭載した状態で出荷され、ダウングレードができません。

古いバージョンのソフトウェアをデバイスに搭載したままにしておくと、一貫性、セキュリティ、およびユーザーエクスペリエンスが損なわれる可能性があります。特に、組織で使われているさまざまな種類のデバイスやOSプラットフォームを1つの管理ソリューションでサポー

トする場合に、その傾向が強くなります。ユーザー主導で行われるApple OSのアップグレードは、ライセンス更新などの複雑な手続きやコストが一切ないため簡単に行うことができます。これが、さまざまなエコシステムの中でAppleのOSがもっとも高い普及率を誇る理由のひとつです。

エンドユーザーが最新の機能へのアクセスを楽しむに一方で、IT管理者にはセキュリティコントロールと正確なシステムインベントリを維持する責任があります。

このガイドでは、最新のmacOSについて理解を深め、慎重な準備のもとでアップグレードを実行する方法について説明します。さらに、組織に価値のあるアップグレードを届け、アップデートを行うユーザーを支援する方法や、業務の中断を最小限に抑え、予定外のダウンタイムをなくす方法についても学ぶことができます。



最新アップグレードへの迅速な対応がビジネスにもたらす価値

組織の準備が整い次第、迅速なアップグレードの重要性を理解し、アップデートを行うためのサポートをエンドユーザに提供することが不可欠な理由は主に4つあります。

1 セキュリティの脆弱性の削減

最新のオペレーティングシステムでは通常、セキュリティやプライバシーの機能が向上しています。そのため、ユーザに対して最新OSへのアップグレードを奨励することは、組織にとっても大きな利益となります。さらに、デバイスに最新OSが搭載されていないことによって発生するデータ漏洩やシステムの脆弱性を防ぐことができます。

2 素晴らしいユーザエクスペリエンスの維持

新機能や改善点が搭載された最新OSを、エンドユーザは心待ちにしています。Appleのエコシステムをフル活用するユーザが増える中、ユーザは異なるデバイスの連動を可能にする機能を求めており、そのために最新のアップグレードとデバイス間の互換性を必要としています。

3 ユーザの生産性の維持

最新のオペレーティングシステムには、より高い効率性と生産性を可能にする新たな機能が搭載されています。そして、アップグレードなしではこれらの便利な機能を利用することができません。

4 最新のIT管理機能へのアクセス

最新OSは新たな管理機能を豊富に提供してくれます。これにより、Apple製品のエコシステム管理のための新しい機能へのアクセスはもちろんのこと、組織の環境や特有のニーズに基づいて、新たなエンドユーザ向け機能をカスタマイズおよび構成することができます。

ベータプログラムへの参加

1
ステップ

「攻撃は最大の防御なり」の言葉通り、AppleSeed for ITが提供する次期リリースのプレビューを利用して、最新のOSバージョンや機能が組織にどのような影響を与えるかについていち早く把握しておきましょう。

AppleはOSを毎年アップデートしており、ベータプログラムに参加すると正式なリリースの数ヶ月前に検証を始めることができます。AppleSeed for ITは、macOS、iPadOS、iOS、tvOSのベータプログラムを無償で提供するサービスです。参加するには、Apple Business ManagerまたはApple School Managerで使用している管理対象Apple IDで登録します。

ベータプログラムに参加するメリット

1 Apple OSのベータプログラムは通常、複数のフェーズから構成されます。初期段階から参加し、Appleにフィードバックを提出することで、組織に大きな影響を与える可能性のある問題がリリース前に解決する可能性が高まります。また、Appleにフィードバックを送信する際に「フィードバックアシスタント」Appを使用することで、対応の進捗状況や修正が反映される可能性のあるOSバージョンなどを確認することができます。

2 ベータプログラムに参加すると、新機能や互換性をいち早く試すことができるだけでなく、ユーザエクスペリエンスにどのような影響があるのかについて理解を深めることができます。新たに追加された設定、移動した機能、名称の変更などが把握できるので、トレーニング素材やオリエンテーション資料などを更新する際に役立ちます。このようにしてユーザエクスペリエンスの変化に備えることで、ユーザに配慮したサポートモデルやコミュニケーションプランを用意することができます。

3 最後に、新たなOSの設定や機能だけではなく、アプリケーション、インフラ、管理ツールとの互換性を事前に検証することが、現在の環境で使用されているソフトウェアを引き続き使用するにあたって不可欠です。Appleが提供するベータ版を試用し、導入されたアプリに問題がないか検証することをお勧めします。Appleは、ベータ版OSがさまざまな組織の環境においてどのように動作するのかを検証するためのテストプランを豊富に用意しています。

Appleのベータプログラムに参加したことがない場合は、今すぐ無料で登録して今後のOSの検証に役立てることをお勧めします。

ベータプログラムへの参加

ベータプログラム参加時に気をつけたいこと

Mac、iPad、iPhone、Apple TV向けOSのベータ版検証には、専用のハードウェアを用意しましょう。個人所有または業務に不可欠なハードウェアを使用することは避けるべきです。

また、組織のビジネスツールだけでなく、デバイス管理ソリューションも同様に検証する必要があります。Mac、iPad、iPhoneまたはApple TV

デバイスの管理およびセキュアな運用にどのようなソリューションを使っている場合でも、年間を通じて積極的にベータプログラムに参加し、すべてのデバイスでAppleのベータ版ソフトウェアが機能するかどうかを検証することが大切です。

詳細は、Appleの「[Appleライフサイクル管理](#)」ガイドまたは「[AppleSeed for IT プログラムプランニングガイド](#)」をご参照ください。



1
ステップ

戦略的な 検証



ステップ
2

最良の結果を得るために、またアップグレードがエンドユーザのワークフローに予期せぬ影響を与えることのないように、以下をはじめとする技術スタック全体の検証をお勧めします。

1 インフラ

VPNやプリンタドライバなど、アプリケーションスタック以外のものは必ず最新OSで検証する必要があります。クラウドホスティングサービスに移行しつつある組織は、このステップがあまり重要でない場合もあります。

2 アプリケーション

これにはウェブベースのもの、そうでないものが含まれます。すべてのアプリケーションを検証する時間がない場合は、互換性に関するベンダーの声明に基づいて優先順位を決定します。

2021年にリリースされたmacOS Montereyで、旧式のカーネル拡張機能への変更が追加されました。Appleの最新のシステム拡張フレームワークへの対応については、ご利用のベンダーにお問い合わせください。

3 管理

これにはデバイス導入と管理のソリューション(MDM、EMM、UEMなど)が含まれます。お使いのデバイス管理ソリューションで最新OSの管理機能や制限などを検証できるかどうか確認してください。

4 セキュリティ

これには、アイデンティティとアクセス、エンドポイント保護、脅威防御、コンテンツフィルタリングが含まれます。前述の管理ソリューションと同様に、お使いのセキュリティソリューションに新たなセキュリティ機能を検証する機能が備わっているかどうかを確認しましょう。

ユーザを一番に考えた検証プロセス

ステップ
2

まずは優先順位を付けましょう。組織で使用されているすべてのアプリケーションをリストアップし、業務にとっての重要度に基づいてランク付けを行います。もっとも不可欠なビジネス用アプリを優先し、次に中程度に重要なアプリ、そしてあまり重要ではないアプリやブラウザなどが続きます。

多くの組織は、デバイス管理ソリューションのプロバイダから提供される自動化されたインベントリ情報と、使用頻度に基づいて、優先順位を決定する傾向にあります。

対象となる事業部門（例：財務、マーケティング、営業、IT、人事など）からエンドユーザ側の代表者を募り、日常業務におけるプロセスについて話を聞いたり、よく使うワークフローやツールについて教えてもらったりすることも検討すべきでしょう。それらをリスト化しておけば、実際の検証の際に役立ちます。

iPadOS、iOS、tvOSのアプリはアーキテクチャが異なるため、これらのプラットフォームにおいては手軽な検証が適しています。ポイント&クリックタスクを自動的に実行・検証してくれる自動検証ツールの活用も考えてみましょう。検証フレームワークの詳細については、ITILの認定資格をご参照ください。

さらに、各OSの検証すべきエリアや機能について提案するAppleのテストプランを参考にすることもできます。こちらはAppleSeed for ITのポータルで確認することができます。

ユースケースを記録する際には、事業部門、優先順位、アプリケーション、タスクの内容、互換性の有無などを記入しましょう。

事業部門	重要度	アプリケーション	タスクの内容	オペレーティングシステム	互換性
マーケティング	中	Word	「アップグレードしたばかりのMacでWordドキュメントを新規作成し、Copperplateフォントを選択し、プリンタで印刷する」	MacOS Ventura	有り

最新OSを 理解する



OSアップグレードのオプション

以下のいずれのオプションを選択する場合でも、macOSのコンテンツキャッシュサービスを使用してネットワーク使用量を減らすことをお勧めします。これにより、アップグレードのダウンロードスピードが向上します。

Mass Action (一括処理) コマンドの送信によるアップデート

このコマンドを使用すると、監視対象、またはJamf ProのPreStage Enrollment (事前登録) で登録された個々のコンピュータまたはコンピュータのグループを一斉にアップグレードすることができます。Jamf ProからScheduleOSUpdateコマンドが送信されたら、「ダウンロードとインストール」コマンドを選択してアップデートを実行し、コンピュータを再起動します。詳しくは、「一括処理 (Mass Action) コマンドを使用したmac OSのアップグレードとアップデート」をご覧ください。注意: Appleシリコンを搭載したコンピュータでは、Bootstrap TokenがJamf Proにエスクローされている場合、アップデートの認証にユーザの操作は不要です。Jamfではこの方法を推奨しています。

macOSインストーラのパッケージ化によるOSインストール

アップグレードプロセスを自動化したい場合、macOSインストーラをパッケージ化して自動的にインストールする方法と、Self Service経由でユーザにインストールしてもらう方法があります。さらに、スクリプトを使ってユーザエクスペリエンスをカスタマイズすることもできます。macOSの大型アップデートがリリースされた際にはこの方法を推奨します。詳しくは、「対象コンピュータにステージングされたインストーラ App を使用した macOS のアップグレード」をご覧ください。注意: Jamfでは、Appleシリコンを搭載したコンピュータにmacOSの大型アップデートをインストールする際には「ダウンロードとインストール」コマンドを使用することを推奨しています。

**Jamf Proを使ってmacOSアップグレードやアップデートを導入する方法について知りたい方は
こちらをご覧ください。**

最新OSを 理解する

ステップ



OSアップグレードのオプション

macOSアップグレードに伴うデータ消去

アップグレードの際にMac上の既存のデータを消去する場合は、前ページのオプションを選択する代わりに、以下の方法でアップグレードすることが可能です。

--eraseinstallコマンドを使うと、macOSのインストールと同時にハードドライブを消去することができます。macOS Venturaのインストーラをダウンロードし、MDMソリューション経由でアップロードするだけで完了します。macOS Venturaをポリシーを使って導入する場合、以下の方法で行います。

- 1 クライアントにインストーラを用意する
- 2 startosinstallコマンドの--eraseinstallフラグを実行する
- 3 インストールを自動またはSelf Service経由で開始

注意: Appleシリコンが搭載されたデバイスでstartosinstallコマンドとmacOSインストーラ Appを使用する場合はユーザ認証が必要です。

その他、覚えておくべきこと

- startosinstallコマンドとmacOSインストーラ Appを使用する場合はユーザ認証が必要になります
- Jamf ProのMass Action (一括処理) コマンドを使用する場合は、「Include major updates, if available (利用可能な場合はメジャーアップデートを含む)」オプションを選択します
- Bootstrap TokenがJamf Proにエスクローされている場合には、ソフトウェアアップデートを許可するためのトークンをmacOSが要求するので、ユーザによる操作は不要です

最新OSを 理解する

ステップ

macOS Venturaの機能

宣言型デバイス管理

宣言型デバイス管理では、管理サーバのポリシーの範囲内でデバイスがより積極的に動作します。これにより、デバイスは管理サーバからの反応を待たずに、自らの状態の変化を把握して定義された基準に沿ってアクションを起こすことができます。宣言型デバイス管理は、現代のデバイス管理の複雑なニーズをサポートし、管理対象デバイスを使用するユーザの包括的なエクスペリエンスを向上させ、IT管理者をつまらないタスクから解放するだけでなく、デバイスが自身を管理する状態を作り出すことができます。

緊急セキュリティ対応

この機能により、今後はこれまでよりも迅速にセキュリティアップデートをデバイスとユーザに提供することが可能になります。緊急セキュリティ対応はソフトウェアアップデートの延期設定に従う必要がないため、対応が次のマイナーアップデートに含まれます。さらに、緊急セキュリティ対応が導入するアップデートは、デバイスのファームウェアの調整やデバイスの再起動を必要としません。

プラットフォームシングルサインオン機能拡張

今後ユーザは、より素早くより安全に会社のリソースにアクセスできるようになります。プラットフォームシングルサインオン機能拡張(PSSOe)は、Macのローカルユーザアカウントをシングルサインオンアプリケーションに紐付ける機能をSSOeの構成プロファイルに追加するものです。ユーザは、macOSのログインウィンドウからクラウドIDプロバイダ(IdP)のパスワードを使用してログインします。Macのログイン画面で認証情報を入力すると、PSSOeアプリがユーザのローカルアカウントパスワードをアップデートするか、あるいはMacの安全な場所に保存されているトークンを使用して、ローカルでユーザの認証を行います。ユーザがログインに成功した後、ローカルアカウントのパスワードはクラウドIDのパスワードと同期します。つまり、ユーザは再びパスワードを入力しなくても、IdPとSSOeアプリによってゲートされたあらゆるリソースにアクセスできるのです。

注意:この機能は 最初のリリース時には利用できません。また、登録SSOのワークフローをサポートするクラウドIDプロバイダが必要となります。

iPadOS 16およびiOS 16へのアップグレード

実際にiPadやiPhoneデバイスにアップグレードを導入・実行するにあたり、2つの選択肢があります。ユーザ主導のアップグレードと、IT部門主導のアップグレードです。

各オプションについて説明する前に、Jamfの管理ソリューションの場合、アップデートを最長90日間延期することが可能です。この機能は、最新OSの検証がまだ終わっていない、またはアップグレードの準備が整っていない場合などに便利です。延長期間中、ユーザはデバイスをアップグレードできません。

アップグレードする準備ができている場合

アップグレードを決行する場合は、ユーザとIT部門のどちらが行うのかを決めなければなりません。

ユーザ主導のアップグレード

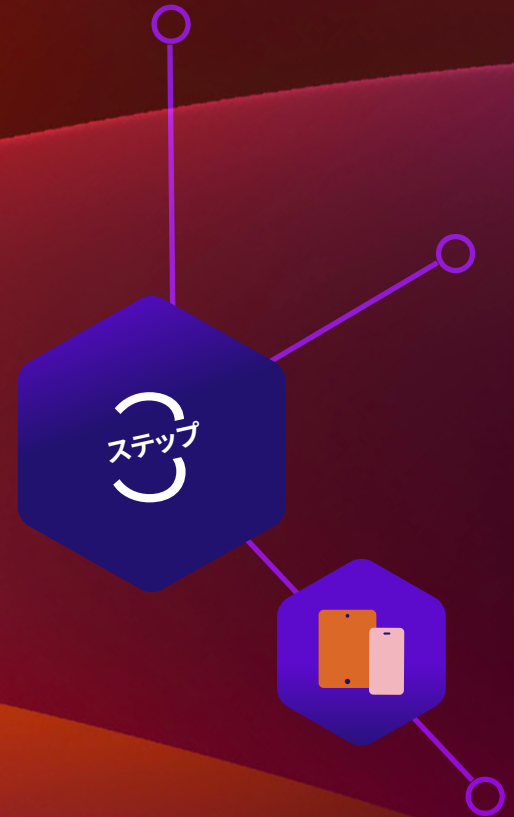
ユーザがデバイスの設定メニューからインストールを行います。IT部門の介入は必要ありません。

IT部門主導のアップグレード

Apple Business ManagerまたはApple School Managerでデバイスを管理している場合は、IT部門がMDMコマンドを送信して最新OSをインストールすることができます。ユーザの介入は必要ありません。このコマンドは個々のデバイスまたはグループに向けて送信ことができ、組織のニーズに合った形でアップグレードを行うことが可能です。

注意: デバイスにパスコードが設定されていない場合は、インストールを自動的に行うことができます。パスコードが設定されている場合は、アップデートはキューに追加され、インストールを開始するためのパスコードの入力をユーザに促します。

最新OSを 理解する



最新OSを 理解する

ステップ

iOS 16とiPadOS 16の新機能

登録SSO(シングルサインオン)

デバイスをMDMに登録する際のユーザエクスペリエンスとセキュリティの両方を引き続き向上させるために、Appleが新たに追加した機能です。これにより、ユーザは管理対象Apple IDとクラウドIDプロバイダの認証情報を使って、一度の認証で業務リソースにアクセスすることができます。登録SSOを利用するには、登録SSOに対応したアプリ、Apple Business Manager (ABM) またはApple School Manager (ASM) で作成された管理対象Apple ID、クラウドIDプロバイダと連携したMDM、アプリ情報を返してエンドユーザをバリデーションするよう構成されたMDMサーバーが必要になります。

ユーザが登録SSO経由でサインインする方法

- 1 設定Appで登録対象Apple IDを入力
- 2 App Storeから登録SSOに対応したアプリをダウンロード
- 3 サインイン
- 4 この登録ワークフローを経てアプリにサインしたら、再度サインインする必要はありません

【重要事項】登録SSOはOSのリリース時には利用できません。後日リリースされるiOS 16へのアップデートで利用可能になる予定です。また、登録SSOのワークフローをサポートするクラウドIDプロバイダが必要となります。

管理対象デバイスの認証

承認されたデバイスのみ組織のサーバへの接続を許可するもので、iOS/iPadOSの識別子(UDIDまたはシリアル番号)が本物であること、また攻撃者によって改ざんされたり悪用されたりしていないことを確認します。

緊急セキュリティ対応

この機能により、今後はこれまでよりも迅速にセキュリティアップデートをデバイスとユーザに提供することが可能になります。緊急セキュリティ対応はソフトウェアアップデートの延期設定に従う必要がないため、対応が次回のマイナーアップデートに含まれます。さらに、緊急セキュリティ対応が導入するアップデートは、デバイスのファームウェアの調整やデバイスの再起動を必要としません。

最新OSを 理解する

tvOS 16へのアップグレード

Apple TVデバイスは、アダプタを必要としないワイヤレス共有を実現し、モダンなミーティング体験を提供します。Apple TVは、ホスピタリティなどの特定の業界においては、デジタルサイネージや案内表示としても活用できます。

tvOS 16で導入された管理機能により、組織のニーズに合わせてApple TVの活用を詳細にカスタマイズすることができるようになります。

tvOS 16へのアップグレードに先駆けて、以下の点を考慮しておきましょう。

MDMコマンドのアップグレード

今回のアップグレードで、tvOSデバイスをiOSと同様にMDMコマンドでアップグレードできるようになりました。例えば、アップデートしたいtvOSのバージョンを指定することもできます。

自動アップグレード

ユーザの手を煩わせることなく、tvOSがもっとも早いタイミングで最新のOSリリースに自動アップデートされます。ただし、構成プロファイルによってアップデートの延期が指定されている場合や、Apple TVでシングルAppモードが有効になっている場合を除きます。

ステップ



次に、アップグレードに先駆けて以下の関係者と対話をしましょう。

情報セキュリティチームとの提携

組織に情報セキュリティ (InfoSec) チームが存在する場合は、これを機会にパートナーシップを築いておきましょう。組織のセキュリティや生産性の維持は、単一のチームで成し遂げられることではありません。情報セキュリティチームに積極的に働きかけ、彼らのニーズを考慮した上でOSアップグレードを行うことが大切です。

Appleがリリースする消費者向け機能の中には、情報セキュリティチームによって使用許可が得られていないものがあります。その場合、これらの機能を無効化するためにMDMの仕様をアップデートする必要があります。どの機能が組織にふさわしいかを、できるだけ早い段階で情報セキュリティチームと話し合うことをお勧めします。

テストプランを立て、新機能について情報セキュリティチームに伝えましょう。新しいOSのバージョンでリリースされる新しい設定や制限を組織で採用したい場合、スマートグループを賢く使用して対象となるデバイスだけに適用することが重要です。

エンドユーザ側のアップグレードの準備

1 Macのアップグレードにかかる時間について予備知識がないエンドユーザもいます。アップグレードにかかる平均時間と実行する最適な時間帯についてユーザに知らせておきましょう。

2 アップデート前のデバイスのバックアップを推奨しましょう。ローカルだけでなくiCloudのバックアップも行っておく必要があります。

* macOSのバックアップを一元的に行っている場合は、アップグレードを行う前にバックアップ実行のポリシーを送信することを推奨します。

3 30日以内にアップデートするポリシーを作成し、それが行われない場合は管理者側で実行することを通知しておきましょう。PCIDSSのコンプライアンスでは30日以内のアップデートが要件となっています。

アップグレードに関しては、十分過ぎるほどのコミュニケーションを心がけましょう。メールやイントラネット、またはSelf Serviceのアプリ経由で、OSのアップグレードの前に時間に余裕を持って警告と推奨事項の通知を行っておくことが大切です (Self Serviceは、ご利用のMDMによっては使用できないことがあります)。最終的にはそれがエンドユーザのためになります。

アップグレードに関するコミュニケーション

4
ステップ



アップグレードによる機能強化のメリットを享受する

Appleの最新オペレーションシステム (macOS Ventura、iPadOS 16、iOS 16、tvOS 16) は、革新的な機能性を組織に提供してくれます。

シームレスなアップグレードプロセスを実現することは、十分なセキュリティ対策やインベントリ管理を維持し、ダウンタイムを最小限に抑えることにつながります。Appleのエコシステム管理に特化したソリューションがあれば、エンドユーザーに悪影響を与えたり、IT担当者に多大な負担をかけたりすることなく、最新のApple OSを最大限に活用するためのツールをユーザーに提供することができます。

Jamfは、ユーザーエクスペリエンスへの影響を最小限に抑えながら、OSアップグレードを含むAppleのライフサイクル管理を自動化することのできる、唯一の管理およびセキュリティソリューションを提供しています。また、20年にわたりApple製品のサポートに力を入れており、新しいOSが発売されたその日からサポートと互換性を約束しています。

[トライアルに申し込む](#)

または、お近くのApple認定販売代理店までお問い合わせください。